

2640 地区・2660 地区交流会

11月16日(日)「2640地区・2660地区交流会」を行いました。この行事は、もともと同一の地区であった2640地区と2660地区が互いの友好を継続するために交互にホストを務めながら毎年行っているものです。今年度は当2640地区がホストを務めました。

今年度の行事テーマは「だんじりの町・きしわだを歩く」です。古い歴史を有する岸和田を散策することで、当地区の歴史・文化を学ぶと同時に両地区の親睦を深めようという趣旨でこの企画がうまれました。

参加者を6つの班に分け、岸和田ボランティアガイドの方の先導で、岸和田城下の風情ある街並を巡り、観光施設を見学しました。そのスポットのいくつかをご紹介します。



開会式後の集合写真



自然資料館の前にて

【だんじり会館】

岸和田の名前を全国的に有名にしているのは何とんでもだんじり祭の存在です。「やりまわし」に代表されるその勇壮な姿は岸和田の象徴とさえ言えるでしょう。だんじり会館ではだんじり祭の実際の映像を迫力たっぷりに鑑賞することができます。また、祭の歴史やだんじりに用いられている技術、各町のだんじりの特色なども学べます。見学したローターアクトメンバーは地区内外を問わず、祭の伝統に圧倒されていました。

【自然資料館】

岸和田市は南大阪を代表する都市のひとつですが、自然環境も豊かです。自然資料館は、岸和田市を中心に泉州地方の自然環境等について展示しています。とりわけ圧巻なのが世界各地の動物の剥製標本を展示したフロアで、中には現在では貴重な動物の標本もあります。参加者はトラやクマなど動物たちとの記念撮影にいそしんでいました。



だんじり会館



自然資料館

【岸和田城】

当2640地区内に現存する城らしい城といえば、最初に思いつくのが和歌山城、そして次に思いつくのが岸和田城ではないでしょうか。そもそも岸和田という地名は楠木正成の一族和田氏が「岸」という場所に城を築いたことが由来だと言われています。江戸時代は譜代大名岡部氏の居城となり、岸和田は城下町として発展しました。往時は天守閣が五層からなる豪壮な城だったそうです。参加者は天守閣に登り、そこからの眺望を楽しみました。



岸和田城



城下町を歩く

閉会後は恒例の食事会です。両地区が混じってちゃんこ鍋をつつき、さらに友好を深めました。一緒に散策した6つの班には、岸和田の歴史に関する10問のクイズを解いてもらっており、この食事会の場で答え合わせを行いました。結果はなんと4つの班が全問正解。歩き、学び、交わり、楽しむ、最高の一日になりました。

各クラブの活動

- 御坊RAC：守口RACとの交流会

11月9日(日) 毎年恒例の守口RACとの交流会を、今年は守口RACのホストで行いました。交流の場所は大阪新世界周辺です。本場の串カツを味わい、四天王寺を訪問し、おまけに日本橋のメイドカフェまで挑戦しました。さまざまな体験を楽しむとともに、日頃のRAC活動について両クラブで意見交換もし、充実した一日を過ごせました。

- 富田林RAC：海外研修(台北稻江RACとの交流会)

11月28日(金)から11月30日(日)まで、台湾へ海外研修に行ってきました。友好クラブ提携を結んでいる台北稻江RACとの交流が主な目的です。参加した3人の会員は台北稻江RACメンバー宅でホームステイをし、言語の壁を乗り越えて懸命に意思の疎通をし合いました。市内の散策等を通して、十分に親睦を深められたと思います。



新世界の象徴・ビリケンさん



台北稻江RACとの交流の様子

【編集後記】

広報誌「2640通信」の第3号をお届けします。今号は昨年11月と12月の行事を特集しています。今年度も残すところあと3ヶ月余り。私たちもいよいよ地区大会の準備が本格化してきました。各クラブの皆さんには、自分たちの活動をいま一度見直し、ラストスパートという気持ちで例会やクラブ行事に取り組んでいただきたいと思います。

(2009.3.29)

発行責任者：中野 大介

